

春は短い。

ドーナツ

春は短い。

『春は短い。』

漫画家が机でうたた寝をしている。

重力には逆らえず、頭から机に沈み込む。

何かが刺さる。

「うお！」

漫画家の額にペンが刺さる。

「くそ！」

ペンを抜く。

「これを描ききれば、終わる。」

カレンダーには4月9日が”納期”と書かれている。

電話が鳴る。

「あ！もしもし。」

「P子です。仕事、終わりそう？」

「午前中には終わる。」

「本当！じゃあ、予定通りに12時に公園で

待っているから。遅刻しないでよ。」

「うん！」

電話が切れる。

「先生、誰から電話ですか？」

「彼女からだ。昼からデートでな。」

「デート！？彼女ォ！？？」

「何だ、その反応は？」

「だって、先生は仕事ばかりで、

いつ彼女が出来たんですか？」

「私ほどの売れっ子になれば、モテモテなのだよ。」

「クリスマスの時、遅刻してC子さんにフラれたのに、

良く言いますよ。」

「そういえば暖かくなつたな。おかげで眠い。」

「先生、空気入れ替えたら、どうですか？」

「そうだな。」

漫画家が窓を開け、外を眺める。

川沿いが桜が咲いていた。

「よし！まだ咲いているな。」

横からアシちゃんも顔を出す。

「キレイですね。」

TVでは天気予報が流れる。

「本日4月10日は全国的に晴れ。都内は桜も散り始め、

今日が最後のお花見びよりになりそうです。」

「先生、お花見びよりですって！早くお花見に行きましょうよ！」

「そうだな。しかしなあ・・・」

入り口のドアを開けて、入ってくる編集者。

「先生、次の原稿は出来ていますか？」

見渡せば、慌ただしい作業場。

「締め切り過ぎてるんだよね。」

「なに、暢気な事言っているんですか。」

原稿は上がっているんですか。」

「残り1ページは描いている途中。」

とりあえず、これが追加の5ページです」

「あと、1ページ。はあ、まだ眠れないのか。」

「あ、徹夜ですか？」

「もう3日間は寝てないですよ。」

「アシちゃん、コーヒー淹れて来てくれる。」

「は～い。」

「す、すぐに描きますんで。」

「お願いしますよ。」

「コーヒーを淹れました。」

「どうも。」

「先生の分も淹れました。」

「ん、コーヒー？」

アシちゃんが床の原稿で足を滑らせる。

「痛った～。」

原稿を見て、震える漫画家。

「どうしたんですか、先生？」

コーヒーがラスト1ページの原稿にかかっていた。

「げ、原稿があああ！！！」

「す、すみません！！」

しょんぼりする漫画家。

「ごめんなさい！ごめんなさい！ごめんなさいィ！！」

「・・・まあ、いいよ。1枚ぐらいなら、3時間ぐらいで描けるし。」

「すいません・・・。」

「1枚じゃありませんよ。」

振り返るとコーヒーカップを頭にのせた

編集者が震えていた。

編集者の目の先のテーブルには、5枚の原稿が
台無しになっていた。

「原稿が堕ちました・・・。」

「うああああああ！！（漫画家＆アシ）」

「もう無理ですね。」

「・・・描くのに明日までかかりそうです。」

「ちょっと電話してきます。」

「（私のせいだ・・・。）」

PCに目がつくアシちゃん。

「（なんとかするしかない。）」

「今日、一杯は待ってくれるそうです。」

「そうですか。なんとかしてみます。」

「私、ちょっとコンビニ行ってきますね。」

ネット検索をするアシちゃん。

「（何か、原稿のシミをとる方法がないかな。）」

「じゃ、アシちゃん、頑張るよ。ん、何してるの？」

「シミをとる方法がないものかと。」

「無理だよ。描くしか・・・。ん？」

漫画家がネットで見つける。

「復元マシーン？」

「どうしました？」

「ちょっと良い？」

漫画家がPCを使う。

「何でも指定した時間の状態に戻します。」

この商品は時空転換によって、固有物体の時間座標を
元に戻す事ができます。」
「SFっばいですね。」
「お試し期間は無料か……。面白そうだな。」
クリックする漫画家。

× × ×

深夜の作業場にチャイムがなる。
「先生、届きました！」
「ああ、そこに置いておいて。」
段ボールに目が行く編集者。
「コレなんですか？」

「復元マシーン。何でも復元できるらしいので、
ちょっと取り寄せてみました。」
「まさか、これで原稿を？」
「とりあえず、試してみようと思ひまして。」
「ちょっと、私が使ってみて良いですか？」
「どうぞ。」
「でわ、この原稿を。」

ライト状の復元マシンで原稿を照らすと
原稿がみるみるP子の画になっていく。
「なんだこれ。」
「それは3日前に描いた落書き。」
照れる漫画家。
アシちゃんが復元マシーンを見る。
「設定がおかしいんじゃないですか？」

再び、原稿を照らす。
見る見ると画が浮き上がる。
「おお！！」
電話が鳴る。
「あ。」
電話を取る。
「ちょっと、いつまで待たせるつもり！

今すぐに来て！！」

「わ、わかった！今すぐに行く！！」

× × ×

「一体、いつまで待たせるのよ！桜が散っちゃったじゃない！」

「ごめんごめん。でも、良いものがあるんだ。」

漫画家が桜の木にライトを照らす。

桜が満開となる。

「ほら、満開！」

「だから、なんなのよ！」

P子は漫画家を殴り、去っていく。

漫画家の事務所。

帰りを待つアシちゃんと編集者。

「早く眠らせてくれ。

春なんだから、よけい眠い。」

おしまい。

（コメント）

今回は、投稿テストでアップしたものです。

この作品は2013年2月ぐらいに、

イベント参加用に制作してみた、漫画用のボツ短編です。

イベントにはお題があり、テーマは「春」でした。

3人がドンドンと、時間に追い込まれるていく展開と

追いつめられた人間の非常識な解決方法が書きたかったのですが、

話が膨らみ過ぎて、こんな感じになりました。（汗）

これからも少しずつですが、何か執筆して行こうと思っています。

宜しくお願い致します。

ドーナツ

<http://donutjapan.mikosi.com>
